



日造協ニュース

2017.1月号
通巻 第514号
Japan Landscape Contractors Association NEWS

発行：一般社団法人日本造園建設業協会 編集：広報活動部会 <http://www.jalc.or.jp>
〒113-0033 東京都文京区本郷3-15-2 本郷二村ビル4階 TEL:03-5684-0011 FAX:03-5684-0012

本号の主な内容

新春特別号

これからの時代の造園力 素晴らしい造園の仕事为社会に発信



勝源院の逆ガシワ（しょうげんいんのさかさかしわ）、国の天然記念物（1929年12月7日指定）、岩手県紫波郡紫波町日詰字朝日田

本来カシワは幹が垂直に伸びて、高さが20m以上にもなる落葉広葉樹。しかし、ここ勝源院のカシワは、4本に分かれた幹がそれぞれ地面を這うように伸びてから立ち上がるという摩訶不思議な樹木です。根が枝になったように見えることから“逆ガシワ”の異名があり、古くから珍木として親しまれてきました。なにせ垂直であるべきものが横になっているので、保護・管理も大変。横に伸びた太い幹は自重に耐えられるように支柱で支えられており、防虫・駆除には地元の高校生が活動奉仕をしています。カシワと聞いて“かしわ餅”を連想される方も多いと思いますが、この葉は日陰にもかかわらず、長さが30cm以上にもなる大型のものも見られます。元来は十分な陽光を必要とする樹種ですが、これを見ても逆ガシワの旺盛な成長ぶりがうかがえます。目通り周囲6.86m、樹高15m、枝張東西に21.8m、南北に27.7m、県内一のカシワの巨木であり、樹齢300年、別名“みだれカシワ”とも言われています。【岩手県支部】

謹賀新年

一般社団法人日本造園建設業協会

会長 藤巻 司郎

年頭に当たって

造園建設業の明るい未来のために

新年明けましておめでとうございませう。皆様には、ご家族お揃いで輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。この一年が、皆様にとつて、素晴らしい年に

なりますよう、心から祈念しております。また造園建設業界が、ますます飛躍することを大いに期待しております。

さて、わが国の社会・経済状況は、今、大きな転換点を迎えております。安倍政権が「アベノミクス」で放った3本の矢、さらに新3本の矢により、アベノミクスが加速され、一億総活躍社会、働き方改革、観光立国、地方創生といった新たな時代を構築する取組みが本格的に動き始めました。

今年こそは、経済の好循環の波が全国隅々に行き渡るまでに好転してほしい、と強く願っております。

造園業界を取巻く状況も、「担い手3法」の施行に伴い、日造協が長年にわたって取組んできた要望・提言活動が実を結び、労務費単価の改善やダンピング対策の強化等の措置が着実に講じられ、また公共事業費の維持・確保もされるようになり、大き

く変化しました。しかし、依然として将来的な事業見通しが不透明で、積極的な投資判断を下すには難しい局面が続いていることも事実です。

今こそ私たちは、造園業界の次代の発展に向け、培ってきた「造園力」を多面的に発揮できる場や機会の創造・拡大を目指す必要があります。

中長期的な視点に立ち、災害時における復旧・復興支援活動、日本庭園文化の世界遺産登録運動、観光・地域創生や都市公園制度見直し等々に対応した戦略的展開が求められます。



また、造園業界における中長期的な担い手の育成・確保に向けて、業態や技術面の特性を踏まえ、他の業種分野にはない独自の多面的な取組の展開・強化も図らねばなりません。

造園業界に身を置く誰もが、やりがいを感じ、誇りを持てる明るい未来の魅力ある環境づくりに、この一年も皆様とともに取組んでいきたいと考えております。

本年も皆様のご指導、ご協力、ご支援を宜しくお願い申し上げます。

新年号では、未来に繋がるお話を複数の方からいただきたいと座談会を企画しました。テーマは「造園力」。これまでポスターなどで、周知を図ってきましたが、広報活動部の新メンバーも「こんなにいい言葉なのに初めて知った」など、周知不足であることがわかりました。このため、座談会では昨年刷新した委員会・部会を踏まえ新組織の各委員会からご出席いただき、「造園力」という言葉のイメージやその意味を再考するとともに、将来に向けてどんな「造園力」が考えられ、どう活かしていったらいいのかなど、「造園力」の課題や可能性を語っていただきました。その概要を紹介します。

座談会出席者

- 前杉 昌枝氏 西武造園(株) (総務委員会広報活動部会)
岡本 秀一氏 (株)山口松樹園 (技術委員会造園技術フォーラム部会/事業委員会人材育成部会、地域リーダーズ)
山田 通明氏 (株)山梅 (事業委員会造園領域発展戦略委員会/全国造園デザインコンクール等推進部会、担い手育成・確保推進部会)
當内 匡氏 (株)庭樹園 (国際委員会/事業委員会人材育成部会、地域リーダーズ)
高石 正弘氏 (株)高石造園土木 (資格制度委員会植栽基準診断士制度部会/造園領域発展戦略委員会戦略立案部会)
阪上 恵保巳氏 (株)清香園 (造園領域発展戦略委員会女性活躍推進部会)
(司会) 成家 岳 (一社) 日本造園建設業協会 総務委員会広報活動部長
オブザーバー: 藤巻 司郎 (一社) 日本造園建設業協会 会長
林 輝幸 (一社) 日本造園建設業協会 副会長、総務委員長
高梨 雅明 (一社) 日本造園建設業協会 常任顧問

技術、文化、創造…さまざまな「造園力」

成家 「造園力」は、2009年の通常総会「業界実践スローガン」の中で示され、翌年のスローガンの公募で「造園力!いのちを支える造園技術で、持続可能なみらいへ」が選ばれ、以来、日造協のスローガンとして掲げられてきました。

「造園力」は、伝統技術をはじめとする造園の「技術力」、歴史や地域の特性などを踏まえた「文化力」、そして植物をはじめ、生きものを主体に取り扱い、潤いのあるまちづくりや防災・減災を踏まえた国土づくりを担う「創造力」など、さまざまな「力」があります。まず、皆さんがイメージする「造園力」について、一言いただければと思います。

當内 地域リーダーズの総リーダー及び国際委員に就任しております。私は、もともと技術系で、そのため施工技術的な面に思い入れが強く、「造園力」という庭づくりや庭を管理する技術が一番の基礎で、その技術を展開して公園や緑地などを造ったり管理したりするものと理解しておりました。しかし最近では、それらハード面だけではなく、公園管理のように運営管理やイベント企画を行うなど、我々が作る場や空間を生かすソフト面も非常に大切な造園力であると考えてようになってきました。

高石 資格制度委員会や造園領域発展戦略委員会を兼任しています。

「造園力」という言葉を初めて聞いたとき「変な言葉だなあ」と思いました。ただ、よくよく考えてみますと「造園」が携わるものには、個人の庭園もあれば、公園もあり、まちづくり、都市景観、里山づくりなどがあり、こうした多種多様な空間づくりに共通していることは、自然、特に植物を中心に空間を形成することで、こうした力に、これまでの文化力、未来への創造力、それを可能にする技術力を加味したものが、「造園力」であると、今は理解しています。

阪上 私は30数年前、植木屋さんにお嫁に行くと思って嫁いで来ましたが、私の知る植木屋さんとは少し様子が違うの



當内 匡氏

で、どういう仕事なのか聞いたところ、「造園業」と言われました。造園業が分からなかったの、「造園業って?」と聞くと、「まちのお化粧をする仕事」と言われました。それは、主人が造園科の先生から教えていただいたそうですが、確かに公園や街路樹などでまちをきれいにする仕事です。

手付かずの自然の中に人は住めませんが、生活に自然を取り入れたり、手を加えてよりきれいにすることで、人が集まり、快適に健康に心穏やかに過ごす空間を作ることができます。自然を活かして、人の居場所をつくる。自然と人間を結びつけ、人の生活を豊かにする力が「造園力」なのかなと思います。

山田 私は43回という歴史ある「全国造園デザインコンクール」を担当しています。しかし、受賞者が造園とは別の業界に行ってしまうたり、「造園科」などの名称ではなく、「環境」などの総合的なものにしないと生徒が集まらず、造園より花に関心がある生徒さんが多いといったことを、コンクールに関わってから知り、造園に興味を持ってもらえるような情報を発信していかなければならないと常々思ってきました。

こうした中で「造園力」のPRが大事になってくると思いますが、庭園づくりなどの従来の造園だけではなく、環境緑化を基点に多様な取り組みをしていかな

2017年新春座談会 これからの素晴らしい造園の

ければならないと思います。

私の会社の話しになりますが、社名変更に伴い「造園土木」としてしまいました。これまでの枠に縛られることなく広い視点で、という思いの表われで、「グリーンダイバーシティ」を掲げ、樹木生産から施工、指定管理などを行っています。

樹木生産一つをとっても、葉張りの出ない樹木、管理が容易な樹木など、新しい樹木もどんどん開発され、ニーズに合わせながら、もっとお客さんに喜んでいただけるような空間づくりをしていけたらと思っており、これらすべてに関わるものが「造園力」だと考えています。

岡本 地域リーダーズで活動しております。また、平成30年に全国都市緑化フェアが山口県で開催されることから、その開催地で行う日造協の造園技術フォーラムの準備にも取り組んでいます。

「造園力」を一言でいうのは困難です。でも、私たちが「造園力」を発揮できれば、きっと人々の生活に潤いと安らぎを与えることができ、これまで以上に暮らしの質を良くすることができる、そんな「力」だと思います。

ただ、こうした「造園力」は、日造協会員だけで発揮するのは難しいと思っています。発注者や地域の理解はもちろん、他の団体などとも協力し、私たちが「造

園力」を発揮できる環境づくり、または、状況をつくらないと、実際に世の中全体を良くすることはできないと思っています。前杉 私は企画・広報の仕事をする共に、国営昭和記念公園で行っている体験型の環境学習プログラム「富良野自然塾東京校」のインストラクターをしています。

このプログラムは一番最初に「息を止めてください」から始まります。すると参加者の皆さんが「息を止めたら死んじゃうよ」と言います。その通りで、私たちは、呼吸をして酸素を体内に取り入れれないと死んでしまいます。そこで「酸素を作ってくれているのは?」と聞くと、「植物です!」と皆さん答えます。

こんな風に、当たり前が存在すると思われている空気や水を作り出している自然の大切さ、森と私たちの関係をお話しています。

私は以前、テレビやラジオなどの放送、出版関係の仕事をしており、造園と無縁の世界にいました。まだ、入社3年目で、皆さんからいろいろ教わろうと思っていますが、造園は素晴らしい仕事です。人と自然を結び、環境を保全し、人が生きていくために欠かせない緑を育てるのが造園です。ですから「造園力」は、広い意味で言うと、人々に生きる力を与えるものだと私は考えています。

“公園を宝物に”それができるのも「造園力」

成家 「造園力」について、一通りお話いただきましたが、とても多様で広がってきていることがわかりました。

先ほどのお話の中の出たきたものもありますが、将来に向けた「造園力」について、お話いただければと思います。當内 これまで培ってきた造園技術をしっかり守りながら、新たなニーズやウォンツに臨機応変に対応していくことが必要であると思います。

私の会社は私で5代目で、今まで培ってきた庭づくりや管理など伝統技術的なところはしっかりと継承していきたいと思いをいれておりますが、同時に新たなニーズである自然再生などの事業にも積極的に取り組んでおります。

自然再生は今までの造園的なやり方とは全然ちがいますね。庭や公園は用や美を意識して作り込みますが、自然再生は作り込んでだけではだめで、地域性や自然の摂理を重視していくことが求められますので、今までのやり方や考え方を少し変えて取り組む必要があります。

これからの街路樹のあり方についても同じことが言えると思います。都市のヒートアイランド対策としても、また美しく快適な都市空間をつくっていくためにも、ヨーロッパのように街路樹の樹冠をより大きくする取り組みが求められて

きています。今後は、街路樹に対する従来の固定概念を変えて、剪定などの管理方法や植栽基盤を含めた構造を見直していく必要があります。

しかし、このような事業は、我々造園施工業界だけでなくコンサルタントや行政と協働で取り組むこと、住民や社会の理解を得るために情報発信をしていくことが重要だと思います。

高石 「造園力」という言葉で考えると、「結束力」も大事だと思います。東日本大震災以降、「絆」という言葉が盛んに使われましたが、連携が不可欠です。

造園業は、かつて親方がいて、一人で何でもやっていましたが、会社組織にな



高石 正弘氏

支部長

- 沖鹿宮大熊長佐福愛高香徳山口島鳥広岡和奈兵大京滋福三愛静岐石富新長山神東千埼群栃茨福山秋宮岩青北沖九
縄尻宮分本崎崎賀岡媛知川島島根取島島山島取島山梨奈京都賀井重知岡阜川山湯野梨奈京都葉玉馬木城島形田城手森海道州
森井徳是佐田久藤高植古関多持西福小井中中坂佐上宇水の中内坂北久磯山依山田鈴渡山増水諸今鈴古米三四森木
根上地永藤雜保田保須田田家関々々田谷島林内島西慶和祥信晋啓春和晴坂北久磯山依山田鈴渡山増水諸今鈴古米三四森木
昭恒信叔保豪和良盛誠敏正義司樹之義優之勝明一誠造海敏芳隆朗治人幸忠博三彦進雄一博雄正男昇榮史繁昭貢

2017年 新春座談

これからの時代の「造園力」を語る



岡本 春に高校を卒業する生徒に、うちの会社はどんな仕事をしているイメージを持っているか聞いてみると、「庭づくり」と言っていました。

そこで、「最初は公園のトイレ掃除からだよ」と伝えると驚いていました。イメージしていたことと現実の仕事とのギャップはどんな仕事でもあります。

しかし、違って見える庭づくりもトイレ掃除も、快適な空間にするために必要な仕事でどちらも大事な仕事なのです。

見た目の派手さより、そうした思想の根っここの部分がわからないと、やりがいが見出せないことにもなってしまいます。

最近、古民家の再生に関わる機会がありました。建築家の方と話しをしていて、図面にない部分も、不思議と仕上が

りが想像でき、いろいろと提案もさせていただきました。造園の仕事をしてきたから、そういう発想ができるようになったのだと思っています。

顧問のおっしゃった日本庭園の考え方の通りで、造園の考え方はいろいろところで活用できると思います。そして、こうした考え方ができる人づくりも「造園力」を発揮、継承していく上で、欠かせないことだと思います。

山田 先日山口に行く機会があり、いろいろと案内していただいた中に、足湯がありました。お酒が飲めるお店で、カウンターの下に石が組んであり、そこが足湯になっていて、目の前が樹木を自然な感じにつかっていた庭でした。こういうのをつくったら、喜んで訪れる人がたくさん

いるだろうなと思いました。

岡本 山口市の湯田温泉ですね。湯田温泉には外来で無料で利用できる足湯が6つあり、さらに2015年3月に観光回遊拠点施設として「狐の足あと」という足湯館ができました。情報発信の他に、足湯に入りながら地酒も飲めるし、若い方にも人気です。

山田 ガーデニングは根強い人気がありますが、造園とは違うもののように思われることがあります。私はガーデニングも造園の範疇だと思っていますが、そうした認識があることを残念に思います。

宇部空港のバラがきれいと言いました。そうした空間も造園が担っていることをPRし、広げていけたらいいですね。岡本 駐車場や建物周りなど、バラを見集まりません。

しかし、造園がどのような仕事をきちんと話すと大抵の人はわかってくれ、「そういう仕事だったんですか・・・」と。宣伝不足ですね。

高石 印絆纏と特注のかばんをつくったところ、社員にも好評で、格好いいといわれています。業界外への直接的なアピールも必要ですが、まず、やっている自分たちが自慢できる、格好いいと思うようにしていくことも大事でしょうね。

阪上 料で「カッコイイ」というのは、大切ですね。公共の現場では、安全上の理由で昔からの半纏が着れないのが残念です。女性部会では、「カッコイイ作業着」についても検討していますが、山田さんのところのユニフォームが格好良く、素敵で着たいと思います。

山田 日造協では安全ハネネスの開発を進め、まもなく販売すると聞いていますが、実際に装着されている姿は格好いいです。安全は当然大事ですが、まさに機能美で、そういうものをPRしていきたいです。

高石 自分たちのモチベーションをあげるような取り組みも大事ですね。

3Kイメージを払拭する「格好いい」造園へ

阪上 造園が若い人にウケないのは、泥臭さがあるからなのでしょうか。

前杉 そんなことはないと思います。逆に求められていると思っています。



前杉 昌枝 氏

當内 造園業に3Kのイメージがあるのではないのでしょうか。アンタルヤでのAIPH国際会議で、コロンビアの花業界団体が自分たちの仕事をアピールするプロモーションビデオを紹介してくれました。生産からお客様に販売するまでの様々な仕事をPRする内容で、働く喜びがひしひしと伝わってきました。日造協でもつくっては如何でしょうか。

山田 いろいろなPRの方法があり、日造協の「全国造園フェスティバル」もその一つで、「造園力」のシールもありますが、子どもたちに、「将来は造園の仕事一緒にしよう！」と、声を掛けて、シールを渡そうとしたら、「格好悪いから嫌っ」と言われてしまいました。

前杉 そういのは悔しいですね。造園に興味をもって貰うためにも、緑のある環境の大切さを子どもたちに伝えていきたいです。

阪上 指定管理などで、防犯のステッカーを貼り、公園のパトロールをしていますが、街中を走るときにも「造園力」のステッカーを貼って、「まちの元気を見守りしています」みたいなことが書かれていると、何かあったとき声もかけやすいし、造園のイメージが変わるかもしれません。

3Kと言う話がありましたが、子どもたちだけでなく、保護者の方々もそういうイメージを持たれている方が多いようです。何よりも学校の先生も同様です。先生に造園を理解していただき生徒に教えて欲しいです。

山田 デザインコンクールに応募してくれている学生さんの多くが、最終的に造

園業界に入ってこないという状況もとても残念なことであり、まずは実態を知らないといけないので、高校の先生方のお話を聞いたり、調べているところです。

こうした話しをする中で、インターシップを充実させようと、具体的な取り組みも少しずつ進めています。

一方で、広く一般の求人媒体を使って社員を募集したところ、80人の応募があり、3名を採用しました。応募理由を聞くと、「環境に対して貢献できる仕事がしたい」「指定管理に興味がある」とのことで、最初に話したとおり、造園そのものではありませんが、「環境」に携わる仕事であることが、若い人にとって魅力になっているように思います。

阪上 よく新卒者合同求人会などにも出ますが、建設業は総じてイメージが悪いのかダメですね。

他の業界で、営業ノルマや夜勤のある厳しい仕事と思われる業種にも、人が集まっているのに建設業者には、全く人が

地域貢献や資格、あらゆる手段でアピールを

山田 地産地消や地域コミュニティの再生などもひと頃よく言われましたが、例えばうちの圃場で、ポポーという果樹を育て、地元で活用したりしています。

ポポーの果実は、痛みやすいから流通に乗せることが難しく、なかなか出回らないので珍しく、こんなことができるのも「造園力」の一つだと思います。

成家 地域の話が出てきましたが、近年の自然災害で、造園が地域に貢献したというお話もよく聞きます。土砂災害でのミニバックホウでの対応、仮設トイレへの水補給、鳥インフルの時には、薬剤散布に造園の機材が活躍しました。

自分たちが思っている以上に、そうしたところで役に立てる機会があったりしますが、皆さんいかがですか。

高石 幸いそうした災害に見舞われていませんが、地元で防災協定を結び、機材・資材の登録や何ができるかについて協力体制をつくっています。

阪上 公共事業施工会社は、ランク付けのための経営審査で点数を上げるため、資産である建設機械を保有しなくなっています。

一昨年に関東地方は、これまでにない大雪となり、道路の除雪は優先されましたが、建設機械不足もあり、作業がはかどりませんでした。そんな中、病院が雪で閉ざされ透析の必要な方が、病院に来

られないと悲鳴に近い連絡をうけました。機械も車も出払っている状態でしたが、残っている小さなバックホウと人力で除雪しました。病院からは、とても感謝されました。

国土交通省が、災害に備え、保有機材の調査などを始めたようですが、災害は幹線道路だけではありません。造園業者は小回りの効く機材を持ち役に立つことができます。

成家 いろいろなお話をお聞きしてきましたが、造園に関わる一人ひとり、一企業が發揮していく「造園力」と、業界として取り組んだ方が効果的な「造園力」もあると思います。最後に、日造協がどんなことをしていったらいいか、お考えをいただければと思います。

阪上 部会で、造園の仕事の解説書づくりをしています。日造協では、広報活動を充実していただきたいと思っています。

當内 先程もご提案したように、造園の仕事や協会事業の内容がわかるプロモーションビデオがあれば、かなり活用できるのではないのでしょうか。また地域リーダーズでfacebookの利用を検討していますが、日造協にもあれば、なお良いのではないかと思います。

前杉 facebookやinstagramなどのSNSについては、ちょうど部会内にチームを

に来るだけの方も多く、大変な人気です。

高石 弊社で管理している植物園のバラも手間は掛かりますが、人気です。皆さん関心のある方はすごい。ご自身で育てている人たちだから、どれだけ大変なことをしているか分かるのだと思います。

山田 バラだから特にそうなのかもしれませんが、そういうところから、私たちのことをよく知ってもらおうと、造園の理解者が増え、それが公園や街路、まちづくりに広がっていくと、私たちの仕事の質についてもわかってもらえ、仕事がしやすくなるように思います。

阪上 お客様から時々、「きれいにしてお礼を言われて、お金までいただけるんだから植木屋さんは、いい仕事ね」と言われますが、私たち自身が良い仕事だという意識を持たないといけませんね。美しくするには、ゆとりのあるお金が必要です。昔は、「お大尽様」と言われるような裕福な方たちとも会話出来るだけの知識を持ち、お仕事をいただいていた。お大尽がいなくなり高度成長期には、税金を使う公共工事でした。今は、行政にもお金がなくなってしまいました。今後の造園の向かう方向は、どこにあるのでしょうか。

山田 江戸時代にお庭番と言われ、お殿様のお側に、刃物を持っていられるくらい造園の仕事をしている人は信頼され、地位もあったと聞いています。どこで現在のようになったかわかりませんが、そういうことも振り返りながら、社会的地位を取り戻せたらいいと思います。

岡本 昔は庭師がお客さんの冠婚葬祭に呼ばれるくらいの親密な関係があったと聞きますが、今はほとんどないですね。



成家 岳 (司会)

立ち上げたところであり、造園はみどりをつくって育てる素晴らしい仕事だということをあらゆる情報手段を駆使して発信していきたいと思っています。

高石 公園樹の資格制度も検討中ですが、こうした資格制度は、日造協があってこそのものであり、もっと活用し、質の充実を図っていききたいと思います。

成家 造園の伸びしろはまだたくさんあり、そのためには広報が必要ということで、広報部会が宿題をいただいた感じになりましたが、「造園力」はまだまだこれから發揮できるという明るいお話を聞くことができました。これからの委員会活動などを通じて、皆さん「造園力」を發揮していただければと思います。

本日は有難うございました。